

令和3年度庄原市幼保小連携・接続に係る研修会

令和3年8月23日（月） 庄原市口和自治振興センター

幼児期の教育の特質や内容等について理解を深め、接続カリキュラムの充実を図ることにより、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図ることを目的に、研修会を行いました。

【講話】「コロナ禍における幼保小連携・接続の推進」

安田女子大学 教授 朝倉 淳



◆朝倉教授にリモートでご参加いただき、幼保小連携・接続の本質について、また、コロナ禍における幼保小連携・接続の在り方について、お話しいただきました。

【参加者の声】

- ・連携の本質は「生きるためのつながり」という言葉がとても印象に残った。子供の個性や多様性を大事にしながら学びの力につなげていきたい。
- ・子供たちは安心と学びを求めていることを大切にしながら、これからスタートカリキュラムを見直したい。2学期には、保育所との交流について何か方法がないか、子供たちと一緒に考えたい。
- ・実際に会う「直接的交流」だけでなく、ICTなどを活用した「間接的交流」も今後実施してみたい。

【交流・協議】「今年度の幼保小連携の実際について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 小谷 綾子



◆スタートカリキュラム2年目の今年度に、どのような幼保小連携を行っているか、子供同士の交流、教職員同士の連携・交流という視点で、各校、各園所の取組を交流しました。また、課題と感じていることについて協議を行いました。

【参加者の声】

- ・それぞれの学校や園の取組を聞き、様々なアイデアが出てきた。今の状況だからできること等、ぜひやってみたいと思うことが多かった。
- ・小学校1年生の「おかえり保育」や、夏休みを利用した年長児の「小学校探検」、手紙やビデオのやり取り等、様々な形でできることをやっていきたい。
- ・保小の職員がお互いに、少し踏み込んだ質問ができればよいと思う。